



第25号

令和元年7月16日発行
 会員募集中
 年会費 3,000円
 10月以降入会 1,500円

令和元年度定期総会開かれる

新たに5名が運営委員に選出、新事務局長は山田氏

 玉島を救った「熊田 恰^{くまだ あたか}の劇」を公演


熊田恰切腹のシーン



パネルディスカッション

去る4月27日（土）令和元年度定期総会が岡山県立図書館で開かれた。約100名が参加。石井会長が議長を務め、山崎副会長らより平成30年度の事業報告、決算報告並びに監査報告があり、審議、承認された。次いで、平成31年度（令和元年度）の計画案、予算案が提案され、承認された。

そして、新たに、運営委員として板野忠司氏、津曲真人氏、伊達教夫氏、藪下義文氏（香川県在住）、山崎佳奈子氏そして監事に樋口俊介氏を選任する案が提案され、承認された。

また、後の運営委委員会で、これまで山崎副会長が兼任していた事務局長を退き、新たに山田良三氏が事務局長に選ばれた。

総会の後、明治元年に起きた玉島での「熊田恰」の自決に

至る場面までの芝居を地元、玉島の備中甕江座（びっちゅうおうこうざ）が「熊田恰ー武士道を貫いたラストサムライ」と題して公演を行った。続いて、それについてパネルディスカッションを行った。

総会終了後、会場を「ピュアリティまきび」に移し、30名ほどで懇親会を行った。



山田良三新事務局長



板野忠司氏



伊達教夫氏



山崎佳奈子氏



津曲真人氏

歴・研・展・望

令和を迎えて

平成31年（2019年）4月20日夜、わが家で会合があり、その後、午後9時頃数人の客を玄関まで見送り、空を仰ぐと東天に十六夜の月（いざよいの月）が懸かっていました。月は冬の夜空に煌々と光る月とは異なり、また朧月とも違って、淡い輪郭を持つ、まん丸い月でした。

4月1日の元号発表にならってこの月が万葉集にある「令月」と一人で合点しました。当夜はそよ風の吹く心地よい夜でした。（5月20日も「十六夜の月」を仰ぐことができると人々に伝えました。）万葉集の和歌「初春の令月にして気よく風やわらぎ……」の「令和」と教えられ、その「令和」の時代が5月1日からスタートしました。気分よく、情と理がから

み合った新時代の到来を想像することができます。

日本の最初の元号は大化であり、大化（645 年～649 年）、白雉（650 年～654 年）と経過しましたが、その二つの元号から後は無く、西暦 701 年になって大宝と改元され、以来、今日まで 13 世紀以上続いています。

その間、元号は漢籍から選定されてきました。（明治一易経、大正一易経、昭和一書経、平成一書経）が、今回は日本の古典、万葉集からとなりました。

元号は天皇即位、辛酉、甲子の年、祥瑞、災難の年に制定されていましたが、明治以来一世一元となりました、更に昭和 54 年（1979 年）元号法が公布され、「皇位の継承があった場合に限定し、改める」こととなりました。

令和の新しい時代の岡山歴史研究会は、今までの

事業に加えて日曜歴研サロンを開催、第 1 回は城（山城）、紙（檀紙、和紙）、晷表（蘭草）について提案、協議。又、古代、中世、近世のグループ研究、吉備国語り部の会などバラエティに富んだ研究が実施されます。これらは一層、各自の研究、興味が生かされ、視野も広がり、研究も深まるものと考えます。

新年度の事務局長に山田良三さんが就任、前事務局長、山崎泰二さんは副会長に専念の上、歴研全体に目を配っていただきます。

岡山歴研も来年は 10 周年を迎えます。記念誌の発行も考え、編集委員会の皆様にご苦勞を掛けています。

令和の時代、10 周年。岡山歴研も多くの方々の協力により次へのステップが見えてきた感じがいたします。楽しい歴研になること、参加し易い歴研を何時までも維持したいと考えています。（会長 石井 保）

古代三都物語「吉備編」開かれる 神話、航路、女性を基に講演、シンポジウム



シンポジウム

元島根県立八雲立つ風土記の丘所長の本間恵美子氏は「国譲り」の伝承を中心に出雲神話を紹介した。

続いて、田中文也・山陰古代史研究会代表、大阪府枚岡神社の中東弘宮司も加わり、岡将男氏（会員）がコーディネーターを務めてパネルディスカッションが行われた。「神話は信じますか」の岡氏の問いに対し、各人がそれぞれの意見、心情を吐露した。また国家形成期の 3 地域の関連性などを巡り持論をぶつけ合った。最後に実行委員会の松畑熙一委員長は「今後も三つの地域が連携を深めていこう」と締めくくった。その後、懇親会場に場を移し、わいわい、がやがやと三地域の人たちの間で交流を深めた。

前回は山陰（蒜山）、今回は吉備の国、岡山、次回は畿内で開催予定。奮ってご参加下さい。

去る 4 月 13 日、岡山市北区の西川アイプラザに於いて古代三都物語「吉備編」が開かれた。県内を中心に山陰、大阪、奈良から古代の歴史愛好家、約 250 名が参加した。奈良文化財研究所の馬場基資料研究室長は記紀の説話などから、吉備と大和を結ぶ海上交通ルートを解説。吉備は瀬戸内海航路の要地で、大和にも海との関連を思わせる信仰や物語が点在しており「海と言う視点でそれぞれの地域の結びつきを見るのも面白い」と提案した。

歴史作家の関裕二氏は皇室にまつわる女性の位置、地位、そしてそれにつながる豪族の皇位への関与について図で説明。また「歴史、神話に彩られる 3 県が連携すれば良い観光資源になる」とシンポジウムの意義を語った。



馬場 基氏



本間恵美子氏

歴研サロン

「現存天守を保つ 備中松山城の変遷」

会長 石井 保



備中松山城

去る 5 月 12 日（木）5 月度歴研サロンで、石井保会長が「現存天守を持つ備中松山城」と題して話された。約 50 名が参加。

まず、備中松山城の特徴を述べられた。それは（１）鎌倉時代から現在までの歴史がある。（２）険要高峻な山上に構築された近代的城郭で天守、櫓、土塀を現存している。（３）中世と近世の両世代の城址がある。（４）山城特有の諸施設を見ることができる。（５）山陽と山陰の中間の要として城主の交代が多い。（６）日本三大山城に名を連ねている。（他は大和高取城、美濃岩村城）（７）

城にまつわる逸話が数多くあるとのことである。

備中松山城は 13 世紀、承久の変（1221 年）以降、十何代の城主が入れ替わっている。石井会長の資料を基にその変遷を以下に纏めた。

- （１）臥牛山の 4 峰、（大松山、天神の丸、小松山、前山）はそれぞれ城郭・城地として天然の要塞を形成している。承久の変（1221 年）後、秋葉三郎重信が有漢（高梁市有漢町）の地頭を経て、延応 2 年（1240 年）守護職として大松山へ築城する。秋葉三郎重信は初代備中松山城主として 5 代継続する。
- （２）続いて、高橋九郎左衛門が秋葉と交代し、備中守護職となり北条方として京都で闘い、3 代続く。高橋又四郎の時代に高橋の地名を松山に改める。元寇 2 年、正慶元年に南朝方楠正成と戦い敗れる。
- （３）高師秀は、細川氏の命により正平 10 年文和 4 年（1355 年）備中守護職として赴任、秋葉信盛（創始時代の秋葉の末裔）を執事とする。正平 17 年貞治元年（1362 年）秋葉氏により追放される。
- （４）秋葉信盛が赴任し、以降 7 代続く。6 代目秋葉元明は応仁の乱（1467 年）細川方として山名氏と戦い活躍する。
- （５）上野頼久は守護職・城主となり、頼久寺を再興。（頼久の名を取り、頼久寺となる。）尼子氏と通じた庄氏により滅亡する。
- （６）庄為資は、天文 2 年（1533 年）上野氏兄弟を打ち破り、猿掛城から備中松山城に入った。2 代続く。
- （７）三村家親は永禄 4 年（1561 年）成羽鶴首城から出陣した庄氏が竹荘へ進軍中、留守を尼子の将、吉田左京亮を打ち、永禄 9 年（1566 年）美作に侵入したが、弓削庄興善寺で宇喜多方の刺客により暗殺される。三村元親は永禄 9 年（1567 年）父の仇を報ぜんと備前に侵入、宇喜田直家軍と明禅寺での戦いに敗れる。安芸毛利氏と備前宇喜多氏のとの同盟により、毛利氏と離れ備中松山城を中心として毛利・宇喜多連合軍と戦い、備中全体に戦塵を捲き起こした。（備中兵乱）最後の戦いとされる常山城（玉野市）では毛利勢 6,300 人で包囲された中、城主・上野隆徳の妻鶴姫は長刀を手に敵陣に切り込み、続いて女軍 34 名、さらに家僕 70 名余が死を賭して突撃した。天正 2 年（1574 年）小早川隆景を将として 8 万余りが笠岡に陣し、備中松山攻撃の策を練る。三村方も防備を固めた。毛利

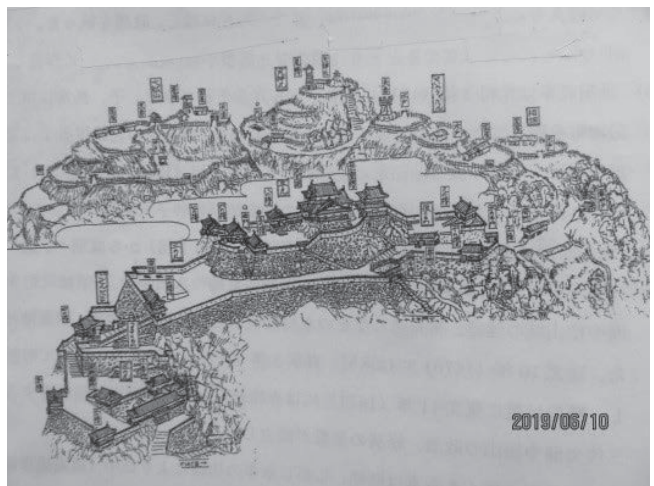
軍は天正 2 年（1574 年）猿掛城へ迫り、天正 3 年（1575 年）3 月から備中松山城総攻撃が開始され 5 月 20 日、天神の丸落城、次に大松山、更に小松山に迫る。城主三村元親は、5 月 22 日城を離れ頼久寺へ、更に 6 月 2 日松連寺において自刃したと伝わる。当時 22 才。

辞世の和歌

「ひとたびは都の月と思いに我が待つ夏の雲にかくるる」

「人という名をかる程や末の露消えてぞ帰る本の雫に」

- (8) 天野、桂は毛利輝元に城番を命ぜられ、在城。山中鹿之助が天正 5 年（1577 年）尼子再興の旗を翻して播州上月城で兵を挙げる。攻撃する毛利の本陣は備中松山城に置かれ、毛利輝元が在城し、上月城攻撃軍を統率した。上月城が落ち、山中鹿之助は松山へ向かって護送される途中、阿井の渡（高梁市落合町阿部）で殺害された。
- (9) 小堀正次、政一（遠州）は、関ヶ原の戦い（1600 年）が終わると備中国（代官）奉行として頼久寺に入り、後、備中松山城、御根小屋を修理し、政務を執った。小堀政一（遠州）は本町新町を取り立てるとともに頼久寺と御根小屋（現高梁高校）に作庭した。
- (10) 池田長幸は元和 3 年（1617 年）鳥取から 6 万 3 千石で移る。子、長常は城下町下町鍛冶町を取立てたが、後継者がなく御家断絶となった。弟、長信の乳母尾砂子は家名存続を訴え続け、その赤誠と池田家の余烈により池田長信は現岡山県井原市に 1 千石を与えられ旗本として家名が存続した。その徳を偲び尾砂子大明神が建立された。
- (11) 水谷勝隆は寛永 19 年（1642 年）常陸国下館（筑西市下館）から成羽へ、更に備中松山へ 5 万石で移る。高瀬舟の水路の整備、玉島阿賀崎の水田開発、勝宗は天和 3 年（1683 年）備中松山城の建築、高瀬通しなどの水路整備、玉島に新田を開発、羽黒神社を勧請した。寛文 10 年（1670 年）には南町、貞享 3 年（1686 年）には東町を取り立てて町割りを整備し、勝美はさらに寛文 11 年（1671 年）には赤崎新町を取り立て河川の整備をするなど水谷三代で備中松山の政治、経済の基盤が確立した。勝美には嗣子無く水谷家は断絶、しかし長年の功績により備中（現高梁市備中町）に 3 千石の知行により旗本となった。その陣屋跡は鶴見家によって守られている。
- (12) 浅野長矩は備中松山城請取り後を家老大石内蔵助に命じ、帰国し、元禄 7 年（1694 年）大石は人数を随えて居残り元禄 8 年（1695 年）赤穂へ帰藩した。
- (13) 安藤茂博は 6 万 5 千石で赴任したが元禄 11 年没し、信友が封を継ぐ。俳諧を良くし、其角一門筆頭といわれていたが、正徳元年（1711 年）濃州加納に転じた。
- (14) 石川総慶は山城国淀から正徳元年（1711 年）に入り 6 万石を領する。延享元年（1744 年）伊勢亀山へ転じた。飛領地備中国中津井（1 万石）へ陣屋を置いた。
- (15) 板倉勝澄が伊勢亀山から 5 万石で赴任し、学問を奨励し、藩校有終館を設立した。7 代藩主板倉勝静は、山田方谷を登用し、藩政改革を断行、更に文武を奨励し成果を挙げた。幕末の老中主座として難局に当たったが慶應 4 年（1868 年）鳥羽伏見の戦いの後、将軍徳川慶喜と江戸へ、更に函館に転じた。その行動は「艱難実録」として残っている。8 代板倉勝弼は廃藩置県により版籍を奉還した。



備中松山城鳥瞰図

歴史探訪「小豆島の歴史と文化探訪」

藤原 康正（会員）

去る 5 月 26 日（日）小豆島探訪会「小豆島の歴史と文化」が行われた。参加者は 47 名。去年は台風が襲来し、やむなく中止となったが、今年は熱中症を心配するほどの天候であった。

当日は瀬戸内芸術祭の春季開催の最終日と小豆島オリブマラソンが重なり、新岡山港から参加された方には駐車場確保でご迷惑をお掛けした。1 年前から計画していた我々にとって思わぬ事態であったが、その他では特にトラブルもなく、工程通りに進めることができた。また、小豆島は珍しく霧に包まれ、暑さも思ったほどではなかった。無事に終えることができ、何よりだった。

新岡山港からフェリーで土庄港へ渡った。最初はフェリーを下りて、バスの中から「土渕海峡」を渡った。世界一狭い海峡（幅 9.92 m）で、観光スポットになっている。

次に、倉敷代官所跡（後に津山藩陣屋）を後ろ手に見ながら「室生院の真柏」に向かった。住職の奥様の出迎えを受け、丁寧な説明をいただいた。真柏は境内に立つ樹齢 1,500 年以上といわれ、国の特別天然記念物に指定されている。主幹は地上 1 m ほどのところで三方に大きく分かれて天空に向かって大きく枝を広げ、森のように緑の葉を茂らせ旺盛な樹勢を示している。根回りは 17 m 近くあり、根元には空洞が見られる。去年は修理中であった木製の回廊も完成していた。雄大な真柏を後にして、次に今回のメインである「肥土山農村歌舞伎台」へ着いた。参加者の高森さまのご紹介により、肥土山農村歌舞伎保存会の方々の出迎えを受け、丁寧な説明と、めったに見れない舞台の中まで見学させてもらえた。年 1 回の開催なので歌舞伎を見ることはできなかったが、江戸時代からの伝統が引き継がれていることは素晴らしいことである。国の重要有形民俗文化財に指定されているのも納得できた。また奈義町の「横山歌舞伎」との交流も深いとのことでした。ここでも岡山県との繋がりを確認した。

昼も近くなり、お腹がすいてきたので昼食の場所である「寒霞溪山頂」へ向かった。途中、左手に「小豆島大観音」を見ながら山の中へ進んだ。当初は見晴らしの良い「四方指展望台」（標高 777 m）を昼食の場所に予定していたが、土産店とトイレのある「寒霞溪山頂」に変更。おかげで寒霞溪にしかないお土産を買うことができた。各自用意した弁当を食べて、昼からの探訪コースに向かった。途中、星ヶ城山（標高 816 m）を右手に通り下山した。道が狭いためパスした「石門洞」などの見どころもたくさんあったが、残念ながらまたの機会とした。

平地に戻り、次は大阪城石切り場跡へ向かった。途中、右手に安田城跡のこんもりした小森を通り過ぎ、海岸沿いを北へ進み、「八人石丁場跡」に着いた。大阪城を築く時に 8 人の石工が一度に犠牲になったとのことであり、山中に巨大な石が沢山転がっていた。おもな石には石工の刻印が多数残されており、刻印を一つずつ確認しながら、足元も気にしながら集合場所へ戻った。小豆島にはここ以外にも多数の石切り場があり、先日、笠岡市とともに日本遺産に選定されたばかりである。



岬の分教場にて

最後に、二十四の瞳の「岬の分教場」を見学し、帰りにマルキン醤油記念館で土産を購入し、予定を終えることができた。

小豆島は、行政区分は香川県小豆郡に属し、小豆島町、土庄町の 2 町からなり、人口は 2 万人弱である。歴史は古く、古事記に「あづきしま」として登場する。醤油、そうめん、佃煮、ごま油、オリブなどの生産が盛んであるのは良質の塩が産出されるからである。帰りのフェリーから沈みゆく夕日を見ながら探訪した小豆島の歴史と文化を思い起こした。

最後に、今回の企画・運営をされた工藤委員長、井上委員、終始ご指導をいただいた佐藤光範顧問にお礼を申し上げたい。



樹齢 1,500 年の真柏



真柏の根元

地方的銀行合同の先駆者 大原孫三郎

— 全国の先駆となる一県一行の中國銀行の設立 — (その2)

高橋 義雄 (会員)

3 金融恐慌発生と銀行の休業

(1) 日本経済の画期的な拡大と反動

1914年(大正3年)に勃発した第一次世界大戦は、日本の資本主義社会の飛躍的發展を可能にした。即ち日本は、この大戦において参戦国としての政治的・軍事的利益と、実質的には非交戦国に近い立場で多くの経済的利益を得て、経済規模を飛躍的に拡大したのである。それに伴い、産業構造及び貿易構造における後進性と脆弱な体質も顕著に改善された。1914年(大正3年)には生産額において工業はなお農業に及ばなかったが、1919年(大正8年)には工業が農業をはるかに上回り、総生産額中の56.8%に達した。産業規模が全般的に拡大する中で、最も急速な生産増加を示したのは電力、ガスであり、次いで化学、窯業、金属、機械の諸産業であった。



高橋義雄氏

輸出市場の拡大は産業構造変革を通じて国内市場を拡大させた。造船業は未曾有の活況を呈して鉄鋼や機械の生産を伸張させ、石炭・電力のエネルギー需要を増大させたので、生産財市場が相互関連的に拡大した。電力産業も産業の発展速度において首位に立つ。さらに化学工業、電気機械工業も著しく発展した。こうした重化学工業の進展によって、京浜、阪神、中京、北九州に大工業地帯が形成され、労働人口の集中によって都市化が急速に発展するに至った。ところが、1918年(大正7年)11月、第一次世界大戦が終了すると戦時中の輸入途絶によって高騰していた諸々の商品、例えば銑鉄、染料、薬品などの製造業や戦時輸送で盛況を極めた海運・造船等の産業が打撃を受ける。

(2) 未曾有の金融恐慌と多数の銀行休業

1920年(大正9年)3月15日の株式市場の暴落に続いて米、綿糸、生糸等の商品市場の崩落が起きた。さらに金融市場に波及し、この年に破綻した銀行は21行、預金取付けを受けた本店銀行は61行に及んだ。

1923年(大正12年)9月1日、関東大震災が発生した。死者は9万人を超え、被災人口は340万人を超える。経済の被害は甚大で東京市役所によれば総額55億円(大蔵省調査101億円)を蒙って経済界は大混乱した。政府は9月7日、1か月間のモラトリアムを決定した支払猶予令、暴利取締令等を交付し、急迫した事態の切り抜けを図った。次いで9月27日には日銀震災手形割引総額は1924年(大正13年)3月末までに4億3,018万円に達した。

1927年(昭和2年)3月14日、片岡直温蔵相は、衆議院予算総会で東京渡辺銀行が破綻した旨の失言を行い、翌15日から東京渡辺銀行、あかぢ貯蓄銀行をはじめとして取付による銀行休業が始まり、東京方面の銀行は一流銀行を除いて一斉に取付けに遭遇した。4月に入って台湾銀行が取引先の鈴木商店に対して新規貸出の中止を通告したことによって鈴木商店の破綻が公表されるに及び、株式市場が一斉に暴落、恐慌状態が再び深刻化した。台湾銀行は窮地に陥り、在台湾店舗を除く全支店が休業に追い込まれ、鈴木商店の系統の六十五銀行、近江銀行等関西諸銀行の休業に続き、大銀行の十五銀行までも休業するに至り、金融恐慌は全国的になった。

4 金融恐慌時の岡山県内の銀行

(1) 岡山県内の預金取付けと銀行の休業

岡山県内の金融界では 1923 年（大正 12 年）の関東大震災の影響も殆どなく、1927 年（昭和 2 年）3 月の恐慌時にも 4 月頃までは比較的平穏であった。

ところが、4 月 18 日、近江銀行が突如休業を発表すると、大原第一合銀頭取が近江銀行の大株主で且つ取締役であることから、第一合銀に対して噂が流れ、翌 19 日に第一合銀の郡部支店で取付けが発生、やがて大原頭取が取締役に就任している岡山合同貯蓄銀行にも波及した。さらに 20 日には後月郡の西江原銀行が向こう 3 週間の臨時休業を発表した。これによって預金者の不安は益々高まり、第一合銀と岡山合同貯蓄銀行本支店の取り付けが一段と厳しくなった。



取付けを受けた銀行の窓口（昭和 2.2.24 「山陽新報」）

4 月 21 日には有力銀行である十五銀行の休業の報が伝わると、預金者の不安はその極に達した。華族銀行として絶大な信用を得ていた十五銀行は岡山支店に預金者が殺到したが、扉は閉じられていたのである。この休業が契機となって鴻池、安田、加島、山口などの大銀行の岡山支店にも取付けが発生した。そのため平素は日銀岡山支店に借り入れのないこれらの銀行が、日銀岡山支店に特別融資を申し込む。そのため同支店の貸出残高は最高 3,000 万円に達した。

4 月 21 日には有力銀行である十五銀行の休業の報が伝わると、預金者の不安はその極に達した。華族銀行として絶大な信用を得ていた十五銀行は岡山支店に預金者が殺到したが、扉は閉じられていたのである。この休業が契機となって鴻池、安田、加島、山口などの大銀行の岡山支店にも取付けが発生した。そのため平素は日銀岡山支店に借り入れのないこれらの銀行が、日銀岡山支店に特別融資を申し込む。そのため同支店の貸出残高は最高 3,000 万円に達した。

さしも厳しい取付けも、4 月 2 日、23 日の臨時休業と 22 日に発表された 3 週間の「支払猶予令」交付により漸く沈静化した。岡山県下では、市中銀行からの預金引出額は 2,000 万円を超え、3 月末の預金残高の 13.4% にも達したと推定されている。一方、日銀岡山支店では 4 月 8 日から 4 日間に 4,335 万円という銀行券の発行超過を示したが、発行額は日本銀行 16 か店中、本店、大阪、京都、名古屋の各支店に次ぎ 5 番目であった。また、岡山県内の銀行に対する特別融資は 1,905 万円に達しており、預金者の動揺や金融界の混乱がいかに激しかったかを物語っている。

(2) 西江原銀行の急速な発展と休業

取付けに遭遇した銀行の内、西江原銀行と玉島商業銀行は取付けに遭遇したことを契機として休業に至るのである。特に 4 月 20 日に休業を発表した西江原銀行の破綻は、県下の金融界や預金者に多大の影響を与えた。

西江原銀行は 1895 年（明治 29 年）12 月、日清戦争後の好況時に後月郡西江原村（現・井原市西江原）に資本金 5 万円で設立された。同地域では江戸時代中期から織物業が盛んであり、日清戦争後の企業勃興期に、多数の織物会社が設立された。織物業等を背景に同地の資産家が設立した西江原銀行は、織物業、製糸業の旺盛な資金需要に応じて貸出を増加させていたので、貸付金が預金の倍以上の残高で推移した。そのため、1903 年（明治 36 年）には、貯蓄部を設置して貯蓄銀行業務を兼営して小口預金の吸収に注力し、数次にわたって増資を行って資金を増加させる。遂に 1919 年（大正 8 年）7 月には資本金を百万円にして、7 支店、3 出張所を擁するまでに発展した。同地方の中心産業である織物業や製糸業に対する貸出が総貸出の 54% を、農業が 16% を占めていた。

こうして隆盛の一途を辿っていると見られた西江原銀行は、第一次大戦後の反動恐慌に際して積極経

営にとがめが現れた。即ち、1920 年（大正 9 年）の反動恐慌で大きな痛手を受けた機業家や製糸家及び農産物物価が低下した農家等への貸出内容が著しく悪化する。さらに、同行は融資に慎重を欠く面があったため、多額の不良債権が生じ、資金内容が悪化、たちまち銀行の資金の逼迫を来してしまった。そこで日銀岡山支店は、同行本店審査部に 1924 年（大正 13 年）12 月 28 日付けにて、西江原銀行に対する特別融資の申請を行った。しかし却下された。

次いで、1926 年（大正 15 年）になって、経営不安が噂を呼び、預金者が取付けに殺到するという事態が起きたが、この時は辛うじて休業は免れた。

（3）第一合銀が西江原銀行を買収

西江原銀行は 1927 年（昭和 2 年）に金融恐慌が発生すると、貸出が預金をはるかに超過し、信用貸出（担保なしの貸出）が全体の 36%に達していたこと（1927 年、昭和 2 年 4 月 19 日現在）から貸出総額に占める回収不能額は実に 50%に達していた。こうした状況にもかかわらず、粉飾決算を行って年率 8%から 10%の配当を続けていた。そのため、早晚破綻をきたすことは目に見えていた。まず、同行高屋支店に取付けが発生、続いて本店やその他の支店にも波及、支払資金は瞬く間に払底したが資金手当ては付かず、同月 20 日に休業を発表するに至った。

同行は再建を図ったが、内情が余りにも悪く第一合銀及び山陽銀の両行から協力が得られない。そのため岡山県当局は本格的に整理の斡旋に乗りだし、第一合銀に整理案の作成を依頼した。西江原銀行も預金者も第一合銀作成の整理案に対して、内容が厳しいと難色を示して紛糾した。そのため整理案は何回も修正された挙げ句、やっと 1927 年（昭和 2 年）3 月になって、西江原銀行も預金者も整理案を承諾した。しかし、未だ納得しない預金者もいたが、最終的には玉島裁判所の和議を受け入れたので、第一合銀は西江原銀行を買収することに決定したのである。

5 金融恐慌下の第一合銀の預金取付

（1）第一合銀の預金取付け

昭和の夜明けとともに始まった金融恐慌は、当時岡山県のトップ銀行に成長していた第一合銀にも大きな爪痕を残した。1927 年（昭和 2 年）4 月 18 日、近江銀行休業の情報に接し、大原頭取は直ちに日銀岡山支店に赴いてその対策を協議した。この時の日銀岡山支店の回答は「広島地方は鈴木商店の事業関係によって多少の動揺は免れないだろうが、岡山県にはその心配もなく、第一合銀と台湾銀行とも無関係なので安全であろう」というものであった。しかし、大原頭取が近江銀行の取締役



大原孫三郎

に就任していたことから流言飛語が飛び交って取付けが熾烈になる。取付け額が 4 月 20 日の一日で預金総額の 10%を超える 300 万円にも達したのである。預金者が本店の預金窓口に殺到した為、銀行が用意した現金はたちまち払底し、日銀岡山支店から何度も現金を運ばざるをえなかった。しかし、預金取付けは第一合銀の経営内容に起因するものではないので、翌日の 1927 年（昭和 2 年）4 月 21 日には終息し、平常の営業状態に復した。

第一合銀は 1927 年（昭和 2 年）4 月 23 日に新本店の新築落成を記念して前蔵相、貴族院議員の井上準之助を招いて記念講演をする予定であった。しかし、こうした緊急事態発生により講演会を中止し、大原頭取は全支店長を本店会議室に集めて、金融恐慌についての訓示を行い、金融恐慌という未曾有の難局乗り越えるために、全行員の団結と一致を訴えた。「大正 9 年 5 月の恐慌時において、本行もまた当然その余波を受けて合同貯蓄銀行と共に取付けに遭った。取付けは銀行の試金石である。切り抜けた

るものは益々発展し、倒れたるものは再び立つ能わざるものである。大正 9 年の恐慌取付けを突破して、飛躍的發展を遂げ、更に今回の取り付けに遭遇した。さらにまた大いなる祝砲が轟いたのである。恐れず撓まずこの難局を切り抜け、更に大いに伸びるは男児の本領である。今や地元銀行に対する信頼の声高まり、わが第一合同銀行に対する好感の増さんとするとき、ますます諸君の奮闘を望む次第である。しかし事態はなお軽んずべきでない。もちろん吾人（自分）に固き自信あり、成算ありといえども、難局は難局である。第一合同銀行の男を売るか捨つるかの土壇場である。吾人には目前のこのみならず、12 月先の金融対策は立てられている。大いに意を安んずべし。しかし諸君において策を誤ればいかなる結果を起すやも計り難い。問題は一個の第一合同銀行のみにとどまらぬ。われらは岡山、香川、広島の産業界を背負って立っているのである。三県の産業を殺すか、生かすか、責は諸君の双肩にかかっているのである。国家的難局に対し、男を売る、また愉快ではないか、しかもこのことたるや微々たる個人の力の能くするところではない。協力一致をもってことに当られたい。鎖の一リングの脆弱は全体の致命的欠陥になる。この団結において必死の努力を払うことを惜しむものは申し出られたい。（略）諸君、諸君は今国家的責任を負って立っているのです。乾坤一擲大にしては国家の為、小にしてはわが第一合同銀行のため、充分決心の臍を固められたいのである。」

休日明けの昭和 2 年 4 月 25 日は心配された混乱もなく平穩に暮れ、26 日には万一の場合に備えて用意していた支払資金や、引き出された預金の再預入等によって、500 万円の余裕金が生じ、うち 400 万円を日本銀行に預入れするほど集まった。しかし、払い出された預金額が余りに多額に上がったため、26 日、頭取名で株主、得意先に対して挨拶状を送り、信用の維持と回復に努めた。

（2）池田経三郎近江銀行頭取の積極経営

近江銀行は大阪系近江商人によって、1894 年（明治 27 年）に大阪に設立されたが、1898 年（明治 31 年）経営危機に陥ると東京系の近江銀行と合併した。近江銀行はこの合併により、関西と東京の「綿業者の機関銀行」となった。

岡山市出身の池田経三郎（1867 - 1923）が日本銀行から近江銀行に入行し、支配人として経営再建に尽力する。池田経三郎は 1905 年（明治 38 年）39 歳で専務取締役役に就任すると、持論の積極経営方針を押し出す。まず、1905 年（明治 38 年）12 月に湖東銀行を、さらに同年 10 月には日野・大津両行を合併する等、滋賀県内に店舗網を拡大していく。

1910 年（明治 43 年）7 月、池田経三郎は頭取に就任し、大阪市内に三支店を開設、1911 年（明治 44 年）11 月には資本金を 400 万円に倍額増資した。こうした積極経営が奏功して、1910 年（明治 44 年）末で、預金残高は 1,000 万円に達したのである。1919 年（大正 8 年）末には資本金 1,500 万円、預金総額 1 億 8,500 万円を擁する、大阪では三十四銀行に次ぐ大銀行に発展した。

（3）近江銀行の休業

近江銀行は業容を拡大したが、1920 年（大正 9 年）に、恐慌の打撃を受けた東西の取引先の綿業商人への固定貸出が多額に発生する。その整理がなされないうちに 1923 年（大正 12 年）の関東大震災によって、東京・深川支店で多額の固定貸がさらに生じた。同年に池田頭取が病死すると、近江銀行は優れた経営者に恵まれず、経営不振が続き、遂に 1927 年（昭和 2 年）4 月 18 日に休業に至った。近江銀行が大規模銀行であり、倒産回避のために日本銀行の支援を受けたことから国民に対する影響は大きく、預金取付けの全国的拡大をもたらす。

そのため、日本銀行と大蔵省は再建策を模索したが、結局、再建策が尽きて 1928 年（昭和 3 年）5 月、前年に政府が休業銀行の整理のため新設した昭和銀行に吸収合併された。なお昭和銀行は 1944 年（昭

和19年)、安田銀行に吸収合併されている。

(4) 近江銀行大原取締役の責任

近江銀行は倉紡の取引銀行であり、倉紡社長である大原第一合銀頭取は近江銀行池田頭取と昵懇であった。大原第一合銀頭取は近江銀行池田頭取の懇請により近江銀行の株主になっていた。しかも、大原頭取は近江銀行の株式を960株をも有して、大株主として上位から13番目に位置し1926年(大正15年)12月現在、取締役に就任していた。

大原頭取の資産額は多額であり、1915年(大正5年)で350万円、近江銀行の大株主の中で上位から2番目であった。1931年(昭和6年)には1,000万円に増加しており同名簿中のトップで、他に同額の株主が二人いたのみである。

近江銀行の休業の影響は大原孫三郎個人にも及ぶ。

1927年(昭和3年)12月8日、近江銀行預金者擁護団員47名が、大阪から大挙して倉敷の大原邸に押しかけて近江銀行の整理について面談を申し入れ、私財の提供を迫るという事件が起きる。大原頭取は、この日は実姉の原卯野の葬儀の日だったので、秘書に対応させた。しかし、預金者擁護団は納得せず、大原頭取による説明を要求した。そこで大原頭取は、「来る12月11日に大阪に赴き、近江銀行の重役と協議し善処する」という方針を近江銀行に伝えた。すると預金者擁護団はひとまず大阪に引き上げた。

(5) 大原頭取の私財提供により評価上昇

大原頭取はこの重要性を察した。その措置を誤れば、大原総一郎個人の信用のみならず、第一合銀への影響もあると感じたのである。そこで、苦渋の決断を行って、大阪上本町にある大原別邸を提供することとした。それと同時に、田中儀一内閣の三土忠蔵蔵相及び日銀総裁井上準之助に、私財提供を持って近江銀行に対する責任が解除されることと、第一合銀へ影響が及ぼされることのないように陳情した。この要請が応諾されて、第一合銀は年末における金融対策の安定を期することができた。そこで、12月26日、中村純一郎第一合銀常務取締役の名を持って次のように経緯を公表した。「大原氏の近江銀行に対する私財提供は、前後を通じて総額55万円に確定した。これは大原氏の所有する大阪における不動産の一部並びに有価証券をもって、充当することになった。また未払い株主の徴収は、大原氏の所有株が比較的少なかったもので、八千円余りで足りることになった。無論この問題は大原氏個人の関係によるもので、当行とは何の関係もない。当行と近江銀行との取引は昨年限りで終了しているし、近江銀行の平取締役としての大原氏は、これで十分な責任を果たされたことと思う」

なお、上本町別邸の提供には日本勧業銀行神戸支店の評価が必要であったが、大原奨学会員で、当時日本銀行神戸支店次長の岡野清豪が間に立って非常に尽力し、土地・建物だけで約50万円と評価し、邸内の美術品、家具類は評価外とした。その結果、建物と土地は1928年(昭和3年)4月に近江銀行へ引き渡されて大原孫三郎は同銀行との一切の関係を清算したのである。三土蔵相や井上日銀総裁は大原頭取の誠意ある態度に感心したといわれる。

注) 岡野清豪(1890～1981): 銀行員・政治家・実業家。賀陽郡上足守村生まれ、第六高等学校を経て1915年(大正4年)、東京帝大法科大学政治学科を卒業し日本銀行に入行。総裁秘書役を経て神戸支店長を務めた後、1937年(昭和12年)に三和銀行常務取締に迎えられ1941年(昭和16年)7月から副頭取、1945年(昭和20年)5月、2代目頭取に就任した。戦後、大阪銀行協会副会長、金融制度調査会会員等を務め、1947年(昭和22年)頭取を辞任後、1949年(昭和24年)衆議院議員に当選、翌年6月に吉田内閣の国務相就任。以後、文部相、通産相に就任した。(つづく)

—郷土に輝く聖人— 仏教の宗教改革者「法然」

山田 良三（会員）

はじめに

私たちが住んでいる岡山県は、かつては「吉備」と呼ばれた地域でした。古代から今に至るまで宗教や思想の分野で優れた多くの人物を輩出しています。中でも代表的な人物は鎌倉仏教を開いたと言われる、日本の代表的な宗派の一つ、浄土宗、宗祖の法然と、禅宗の臨済宗開祖の栄西です。まず、法然を取り上げます。

「おんり え どんぐじょうど厭離穢土欣求浄土」徳川家と浄土宗

さて、歴史好きの人たちが多く関心を持つ時代の一つが戦国時代です。その戦国時代を終わらせた武将が徳川家康です。徳川家はその後代々続き、日本の歴史でもっとも長い 265 年間、戦乱のない平和な時代を実現させた。その徳川家が、戦国の戦いの時に旗印としたのが、「厭離穢土欣求浄土」です。大河ドラマなどでも目にした人は多いでしょう。ところが、その旗印の意味や起源についてはあまり知られていない。

「厭離穢土欣求浄土」とは、どういう意味か？どのような経緯から徳川家の旗印として使用されるようになったのか、インターネットの検索サイトで調べた。出てきたのが、愛知県岡崎市の大樹寺のホームページの中に掲載されている、大樹寺責任役員 成田敏圀師の「厭離穢土 ～家康公の平和思想～」という論文でした。大樹寺というのは代々徳川家とそのもとになった松平家の菩提寺です。

成田師の講演によれば、徳川家のルーツは、八幡太郎義家の末裔とされる。上州得川出身の時宗阿弥で、還俗して三河の庄屋・松平太郎左衛門重信の婿養子になり松平親氏と名乗ったのが始まりとされている。松平家四代の親忠が増上寺より勢誉愚底を招いて建てたのが、今の岡崎市にある菩提寺の大樹寺です。徳川家の姓の由来は家康が初代の得川の姓の得の字を徳の字に改めたのが始まりです。

今川家に従っていた松平元康

後に、徳川家康の名を名乗る松平元康は、岡崎城主でした。しかし幼い頃、今川家に人質として預けられ、成人してからも今川の家臣団として扱われていた。ところが上洛を目指していた今川義元に従い、桶狭間にあった時、織田信長の急襲により敗北し義元も討死にすると、今川勢は敗走して散り散りになり、元康は城主を勤める岡崎へと逃れ、松平家菩提寺の大樹寺に至った。桶狭間での敗戦に悲観した元康は、松平家代々の先祖の墓前で切腹しようとした。ところがその元康を、当時の大樹寺住職登誉上人が「厭離穢土欣求浄土」の話をして思い留ませました。

「厭離穢土欣求浄土」（読みは えんり えど 又は おんり えど ごんぐじょうど）というのは、穢れた世を離れ万民が幸福に生きる世を実現するという意味です。上人は元康に「天下の父母となって万民の苦しみをなくしなさい」と教え諭した。南無阿弥陀仏の心です。

以来、家康は旗指物に「厭離穢土 欣求浄土」と掲げ、口には念仏「南無阿弥陀仏」を唱えながら浄



法然上人

土の実現を期して戦国の世を戦い生き抜き、265 年という世界でも例のない平和で豊かな徳川の時代が実現した。背後にはこういう、徳川家の歴史と込められた浄土の教えがあった。

その浄土の教え、専修念仏の教えの始まりが郷土の生んだ偉大な聖人「法然」です。

江戸時代、浄土宗は幕府によって保護され、法然の墓所である京都・東山の知恩院には秀忠が寄進した三門や家光が寄進した御影堂などがある。いずれも国宝です。江戸の増上寺は徳川將軍家の菩提寺となった。

法然上人五百年遠忌が行われた正徳元年（1711）に天皇より円光大師の大師号の^{おくりな}諡が与えられ、以降、五十年ごとに^{かし}加諡され、東漸大師・慧成大師・弘覚大師・慈教大師・明照大師・和順大師がそれで、平成 23 年には天皇陛下より法爾大師の大師号が加諡された。

専修念仏を説く

浄土宗を興した法然（幼名勢至丸）は平安時代末の長承二年（1133）、美作国稲岡荘（現在の岡山県久米南町誕生寺）に生まれた。比叡山で天台宗の教学を学び、承安五年（1175）、専ら阿弥陀仏の誓いを信じ「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えれば、死後は平等に往生できるという専修念仏の教えを説くようになる。その教えは分かりやすく、平安末期の戦乱の続く乱世の時代に人々の心を捉え、公家や武士、一般庶民に至るまで多くの信徒を集めるようになった。

浄土宗の流れをくむ浄土真宗や時宗などを合わせれば、今では信者 1900 万人に及ぶ日本最大の宗派です。

私の実家は児島（現倉敷市児島）で、実家の菩提寺は金毘羅との両参りで有名な由加山蓮台寺ですので、宗旨は真言宗でした。法然の名は学校の歴史で知るくらいでしたが、大学が鳥取だったので、鳥取への往来を津山線で行い、行き来の途上、誕生寺駅を通る時に、「ここが法然上人の誕生地なんだ」と思ったことを覚えている。

鳥取を出てから、栃木県に在住した。そのころは格別宗教や歴史に関心があるわけではありましたが、お付き合いさせていただいた方の中に、後に浄土宗名越流の本山の住職になった大島良彦氏がいたのを覚えている。その後、十年間ほど東北の仙台や一時福島県の会津や福島市に在住、仕事の関係で宗教関係の方と接する機会が多くなり、日本の宗教史に関心を持つようになった。東北にいて故郷の岡山を見てみると、実に多くの宗教人を輩出していることを知り、故郷の岡山の風土や歴史、さらには文化に興味を抱くようになった。

平成三年に仙台から岡山に U ターンした。そのころ、山陽新聞に「ゆかりの地を訪ねて」という連載記事があった。歴史や人物に興味をお持ちの方なら覚えておられる方も多いと思う。郷土の偉人とその縁の地を訪ねる紀行記事で、とても気に入って、毎回切り抜きして読んだ。それがきっかけで自分でも県内外の史跡を訪ねるようになり、同好の仲間との出会いもあって、吉備歴史探訪会と名付けた史跡めぐりの会を結成した。同じころ知人に誘われて参加した「岡山人物銘々伝を語る会」で、岡山の人物について学ぶ機会を持ち、心に帳を持つことになった。

（つづく）



誕生寺

吉備国の郷土史出前講座 講師 研究テーマ 一覧表

郷土、岡山の郷土史について、出前講座を行います。その講師とテーマは以下の通りです。要望に応じ、公民館、図書館等へ講師を派遣します。講座を希望される団体の方は丸谷憲二（yanagirousi@gmail.com）までご連絡下さい。講師をご存知の方は直接連絡いただき、結果のみご報告ください。

N o	講 師	研 究 テ ー マ、 内 容
1-1	藪下義文	神社信仰の興亡
2-1	杉 嘉夫	神戸事件と瀧善三郎 神戸事件を通じて幕末の攘夷・開国に関する朝廷・幕府・薩長及び備前藩の動向 武士道の真髄を発揮した瀧善三郎の切腹の実情
2-2	〃	池田綱政と岡山後楽園 池田綱政の人物像とその投影である岡山後楽園の特徴 岡山城の惣構えとしての後楽園、特に対砲兵戦の見地から
3-1	伊達教夫	街道の変遷（古代～中世）岡山の山陽道
3-2	〃	岡山の塔婆建築と在住大工集団（中世～近世）
4-1	山崎泰二	米と稲の歴史と文化
4-2	〃	美作後南朝植月御所の秘史概説
4-3	〃	日本語で生きよう 日本語の起源から万葉時代まで
5-1	板野忠司	犬養木堂が挑んだ近代日本の光と闇
5-2	〃	書き換わる日本史の論点
5-3	〃	ミステリーゾーン秦の郷（古墳・神社・廃寺・渡来人）
6-1	岡 将男	吉備邪馬台国東遷説
6-2	〃	岡山城天下取り物語
6-3	〃	岡山の内田百閒
7-1	富久豊	大化の改新の謎
7-2	〃	道鏡と三人の吉備人
7-3	〃	二人の天皇の母 吉備姫王とは
7-4	〃	大和王権と吉備国
8-1	井上知明	天孫降臨の地はどこか
8-2	〃	神武東征の虚実
8-3	〃	「洛中洛外図」から見えてくる歴史
8-4	〃	悲運の武将 三村元親
9-1	山田良三	法然から浄土の教え
9-2	〃	吉備の秦氏
9-3	〃	児島高德 そのルーツと後裔
9-4	〃	熊澤蕃山 その師 中江藤樹と陽明学、陽明学の系譜と山田方谷
9-5	〃	和氣清麻呂と寺社
10-1	平茂 寛	江戸時代の湯屋、天文学、剣豪、博奕、富籤について
10-2	〃	知られざる剣豪
10-3	〃	奇人剣豪 平山行蔵
10-4	〃	徳川吉宗と江戸時代の天文学
10-5	〃	江戸の湯屋
10-6	〃	いかさま采
10-7	〃	江戸時代の富籤
10-8	〃	鍬形蕙斎
11-1	高橋義雄	山田方谷の軌跡、生涯、業績、藩政改革、高弟、思想、陽明学 師：丸川松隠、佐藤一斎、 友人：阪谷郎廬、坂田警軒、関藤藤陰、 高弟：団藤善平、その孫 団藤重光、三島中洲、河井継之助、神戸秋山、 原田一道、留岡幸助、福西志計子、西穀一 孫養子：山田済斎、その子弟 川崎祐宣

1 1 - 2	〃	三島中洲の親友 渋沢栄一
1 1 - 3	〃	川田甕江の子弟 新島襄、子息 川田順、曾孫 歌手佐良直美
1 1 - 4	〃	山田方谷の進言、老中板倉勝静による神武天皇陵の修補
1 1 - 5	〃	柔道の先進県、岡山 柔術の発祥 武内流、名人：田辺又右衛門、金光弥一兵衛 第六高等学校柔道部の全国制覇 8 連覇 シャーロック・ホームズを助けた玉島の柔術 講堂館四天王の岡山出身の柔術家 コナン・ドイルの 60 の作品を翻訳した津山出身の翻訳家
1 1 - 6	〃	岡山県内の銀行の変遷 池田藩設立の第二十二立銀行 備中松山藩設立の第八十六国立銀行 我が国初の 6 行合併の第一合同銀行 大原孫三郎 一県一行の先駆者 大原孫三郎 ワースト 5 から日本一の銀行に改善した銀行
1 1 - 8	〃	伝記：大原孝四郎、大原孫三郎
1 2 - 1	丸谷憲二	吉備国の語源考 黄蕨・羈縻政策説と日本人バイカル湖畔起源説
1 2 - 2	〃	弧帯文石から見える楯築遺跡考
1 2 - 3	〃	邪馬台国は岡山 岡山学としての吉備邪馬台国論 地名学では邪馬台国は岡山です
1 2 - 4	〃	瀬戸内市の焼き物地名 土師と須恵
1 2 - 5	〃	牛窓町鹿忍槌ヶ谷遺跡から見える相撲伝来史
1 2 - 6	〃	石上郷（長船町磯上）と日向石神社（石上神社）考
1 2 - 7	〃	草ヶ部 大廻小廻山城
1 2 - 8	〃	気比神宮末社 擬領神社と黄蕨（吉備）国
1 2 - 9	〃	大内神社 古代文字 阿比留文字について
1 2 - 1 0	〃	秦王国の所在地と秦氏の祖・弓月君の故郷 弓月国
1 2 - 1 1	〃	吉備津神社 七十五膳据神事の七十五の起源について
1 2 - 1 2	〃	龍蛇様（背黒海蛇）から見える出雲の神迎祭と神在月
1 2 - 1 3	〃	吉備児島と神武天皇聖蹟高島宮伝説地
1 2 - 1 4	〃	熊山遺跡と唐招提寺
1 2 - 1 5	〃	古代史から見る豊安地名
1 2 - 1 6	〃	長沼鉾山跡（岡山市東区）発見報告 元文三年（1 7 3 8 年）上寺山，餘慶寺略縁起と豊原庄 豊原庄と豊原南島神社 備前西大寺最後の秘境・長沼鉾山跡発見
1 2 - 1 7	〃	会陽の研究 会陽の起源への挑戦 備前西大寺会陽 元和 2 年（1 6 1 6 年）枝牛玉 備前西大寺会陽の御福窓と御福銭 何故、無量寿院まで深夜に大人数で宝木を戴きに行くか
1 2 - 1 8	〃	西大寺地名考 犀角を伽藍に埋める仏教上の意味 備前西大寺は福岡御庄から移転した 金岡本庄と福岡御庄 金陵山西大寺普門院と阿弥陀寺 備前西隆寺と備前西大寺 その地名の意味 備前福岡国府説の補説 高島国府から松中島へ、そして現在地へ 備前西大寺地名考 皆足と二井寺山極楽寺 皆足姫の誕生日は？

東洋一の規模の鉱山、^{やな はら}柵 原

柵原鉱山資料館 元館長 片山 克彦



柵原鉱山資料館

いる吉井川の中流当り、小高い所まで家々が並ぶ静かな景色。ここにまさか東洋一の規模を誇った鉱山と鉱山町があったとは夢にも思えない景色である。

ここで、柵原鉱山の歴史について繙いてみよう。

今から約 400 年前、有名な関ヶ原の合戦により東軍が勝利。東軍（徳川方）に加担した武功により、時に慶長 8 年（1603 年）美作の国 18 万 6 千石が森忠政に与えられました。森忠政（本能寺で織田信長と共に討ち死にした森蘭丸・坊丸・力丸を兄弟に持つ 6 男）は美作の国の中心の盆地である津山に城を築くことになり、國中から木材・石材の調達を行いました。その際、当柵原地区で鉱山の露頭（褐鉄鉱）を発見したのが柵原鉱山の起源とされています。その後、柵原地区（現在の美咲町）で山師による小規模な採掘が行われました。大正時代に入ってから藤田組（児島湾の干拓で有名）が買収に成功し、正式に「柵原鉱山」と命名されました。

藤田組は大正初期より、欧米に追従する日本の工業の発展の中で、硫酸の原料と鉄源の需要拡大を受けて柵原鉱山の開発に着手し、次々と採鉱を拡大させました。そして、運送手段として高瀬舟や索道に変えて鉄道の敷設に着手し、貨車による大量輸送体制を確立しました。そして、高品位の硫化鉄鋼（黄鉄鉱）の大きな鉱脈を次々に発見したのです。

終戦を迎えた昭和 20～21 年、国土は荒れ、抑留者や兵士の帰国を受けて食糧難になりました。米作りの基となる窒素肥料（特に硫酸アンモニウム、硫安）の増産が急務となり、出鉱量も飛躍的に増大し、柵原鉱山はまさに東洋一の規模と出鉱量を誇る鉱山として発展しました。鉱山の発展に伴い、鉱山を中心とした町作りが進み、昭和 30 年、4 つの村が合併し、柵原町になりました。

しかしながら、産業変革の中で公害基本法等の設定がなされ、石油の精製過程から出る硫黄分を硫酸原料として回収するようになり、柵原鉱山の硫化鉄鉱は硫酸材料としての使命を終えることとなりました。そして、遂に平成 3 年出荷停止に至りました。



町は輝かしい鉱山の歴史を後世に残すため出荷停止から 5 年の準備を経て展示施設の建設によくこぎつけました。

平成 10 年 11 月柵原ふれあい公園は完成しました。又、その一角に「柵原鉱山資料館」があります。国内に現存する鉱山が殆どない中で、当時の鉱山の姿を地上 2 階と地下 1 階にわかり易く展示しています。地上では鉱山町の賑わいや人々の暮らしの様子を、そして地階では、地下 400 m の採鉱現場の様子を模型により楽しく学べるように展示しています。また、公園内には旧片上鉄道の車両が動態保存され、毎月第一日曜日には試乗できます。ご家族で楽しみながら鉱山を学び、芝の公園でお弁当を広げる、そんな一日を過ごしてみたいでしょうか。

柵原鉱山資料館 〒708-1523 岡山県久米郡美咲町吉ヶ原 394-2
電話：0868-62-7155



資料館の内部、昭和の風情

歴史ウォーキング「西大寺 宝木とりの道を歩く」ご案内

訪問先：毎年、2 月に行なわれる会陽の舞台となる西大寺観音院。そこで行われる 1 月 31 日深夜に無言の「宝木の原木を受け取る儀式」の道をウォーキングで訪れる会を開きます。奮ってご参加下さい。

日時：10 月 6 日（日）9 時 50 分～15 時 30 分、雨天の場合は 10 月 13 日（日）

集合場所：J R 赤穂線西大寺駅前、9 時 50 分集合（岡山駅発 9:25、西大寺駅着 9:43 の列車あり）

解散場所：J R 赤穂線大多羅駅 15 時 30 分頃（大多羅駅発 15:45 岡山方面行き列車あり）

参加費：会員 200 円、一般 500 円、（当日集金）弁当、飲み物は各自で持参。

訪問先：西大寺駅～観音院（約 10 分）～旧西大

寺軽便鉄道の貨車～無料寿院（昼食）～宝泉寺～布施神社～大多羅宮寄宮～大多羅駅（約 5km）

案内は丸谷憲二氏（岡山歴研、運営委員）

申込先及び連絡先

参加ご希望の方は、名前、〒住所、電話番号（連絡が取りやすい携帯電話が良い）を書き、電話、Eメール、FAX 等いずれかでお申し込みください。

●電話：090-4654-8964（工藤 博）

●Eメール：sw225442@tw.drive-net.jp
（工藤 博）

●はがき：〒710-0803 倉敷市中島2007-8
（工藤 博）

●FAX：086-466-0192（工藤 博）

原稿募集

来年 10 月で岡山歴史研究会が発足して丸 10 年。再来年 3 月頃に十周年記念誌を発行する計画で担当の委員会が発足しました。これまでの足跡の

記録と参加してこられた会員各自の意見、感想、思い出等を掲載する予定です。想いを奮って寄せて下さい。

編集後記

新たに 5 人が運営委員に加わり、そして山田良三さんが新たに事務局長になりました。これからの活躍を期待しています。

石井会長の「備中松山城の変遷」の物語、折しも戦国時代の背景も加わって人の世の栄枯盛衰を地で行く話。戦後生まれにとって有難い時代に生まれたと感じいった。

今回は中世の宗教改革者「法然上人」に関する考証、そして前回に続き、大正から昭和にかけて一県一銀行を推し進めた大原孫三郎について、第一次世界大戦、関東大震災そして世界恐慌という経済、社会状況の中での指導性は時代が近いだけに迫るものがある。

古代三都物語「吉備編」、古代史ファンが多い

せいか盛況であった。岡コーディネーターの「神話を信じるか？」の問いに対する各演者の答えが興味深かった。今回は畿内。

小学 4 年の時「名高い鉾山の町、柵原」と習った。その柵原鉾山を紹介してもらった。（楠）

発行 岡山歴史研究会
会長 石井 保
編集長 楠 敏明
事務局 〒701-0204 岡山市南区大福415-14
山田 良三方
電話 090-1033-3327（携帯電話）
FAX 086-806-2525
メール okayama.rekiken@gmail.com